

研究報告

基礎看護学実習(見学)直前の 手洗い演習が主体的学習態度に与える因子

－「見学実習に活かしたいこと」の記述内容から－

Incentive to Student's Learning : Hand Washing Exercise before Basic Nursing Study

石綿啓子¹⁾ 茂木泰子²⁾ 米澤弘恵¹⁾ 佐藤佳子¹⁾ 豊田省子¹⁾ 荒添美紀¹⁾

Keiko Ishiwata¹⁾ Yasuko Motegi²⁾ Hiroe Yonezawa¹⁾ Yoshiko Satoh¹⁾
Shouko Toyoda¹⁾ Miki Arazoe¹⁾

1) 獨協医科大学看護学部

2) つくば国際大学医療保健学部看護学科

1) Dokkyo Medical University School of Nursing

2) TSUKUBA International University Health medical treatment faculty Department of Nursing

要旨 本研究の目的は、手洗い演習を通して主体的学習態度に与える因子を明らかにすることである。短期大学部1年次生94名を対象に、見学実習直前に手洗い演習と自記式質問紙を実施し、その中の「見学実習に活かしたいこと」に自由記載された内容を内容分析した。

その結果【洗い方の修正】【患者に感染させない】【病院で気をつけること】【看護師の手洗いへの興味】【実習に臨む姿勢】【病院の実施方法・設備への関心】【自分の感染予防】【手洗いは大切】の8カテゴリーが抽出され、主体的学習態度の動機付けとなる8つの因子が明らかになった。

以上のことから、実習直前の手洗い演習は主体的学習の動機付けとなったことが示唆された。

キーワード：基礎看護学実習(見学) 手洗い演習 動機づけ

Key words : Basic Nursing Study, Hand Washing, Motivation

I. はじめに

伝統的学習理論はすべて「答えをだす行為」の修得に関する理論であり、それを受けた教育方法、授業観は「技を授ける場」であり、教師は「説明するひと」、学生は「説明を聞く人」であった¹⁾と言われ、今まで行われていた教育は

学生を受身にさせ、修得された学習方法は、受身で他人の問いに答えを正しく出すことを習得してきたとも言われている²⁾。

しかしながら、認知科学の進歩により学習観の転換があり、現在では「学び」が常に「学ぶもの」の側からの内なる「問いかけ」の活動に

先導されている点を最も重視するに至っている^{3)~7)}。教育学における主体的学習とは、学習者が内発的な動機にささえられ、課題をもち、自らの思考力をはたらかせ、真理を追求し自己変革する学習をいう⁸⁾。

看護職を目指す学生には、主体的に学習する態度、人に関心を向けられる力、問題解決をする力、他職種、専門職と共同で仕事ができるための協調性と主体性を身に付ける力が必要とされている。特に実習は、対象を受け持つことから、主体的に取りくむことが期待されている。そのためこのような学習観は、基礎看護教育でも同様に考えていく必要がある。佐々木⁹⁾は、「看護基礎教育では、科学優先の時代に入り、思考訓練が行われるようになった。授業時間数が減少している中で、即、実践者の要請は困難を極める。学生が1つの技術を獲得するまでに十分な訓練の機会、あるいは一つの問題をじっくり考える時間的余裕もない。そこで必要になるのが教授法の問題であり、いかに学生自身が自ら学習するかが問題解決の1つである」と述べている。

それを受けて現在では、自ら学ぶ学習方法を基本指針としたチュートリアル教育¹⁰⁾や探究に基づく学習(Inquiry Based Learning)¹¹⁾「ドルトンプラン」¹²⁾などの、教育方法の効果も報告されている。

学生の現状として徳本¹³⁾は、知識偏重で暗記重視の教育を受け、自らの問いを抱き、自らの問いを解くために学ぶというよりは、答え(正解)をすぐに求めるような受身の姿勢が目立つと述べている。

これに対し、主体的に学ぶ体験を先行させる指導方法の提案¹⁴⁾や、基礎看護技術演習においても、主体的に取り組むための教育方法として、能動的学習姿勢育成の目的で学生が教授役を担当する報告¹⁵⁾や、アロンソンの考案したグループ学習法の1つであるジグソー学習法を清拭に取り入れ効果が得られた報告¹⁶⁾がある。そこで学生が主体的に学ぶ姿勢を育てるために、「手洗い」演習を基礎看護学実習直前に行うことにした。

細菌による汚染は目に見えないことがない。そのため、他者への影響を考えることは、他の看護技術と比較しても難しいと考えられる。感染経路の遮断には、手洗いが最も簡単で効果的である^{17)~20)}と言われているが、実際に学生が手洗い後の洗い残しを検討した内容^{21)~26)}は、98.9%に洗い残しがある²¹⁾といわれ、安全についての講義・演習後も学生の洗い残しが存在するという報告が大多数であったため、講義前はさらに十分に洗えていないと考えられる。日常生活援助技術演習時の手洗いは、演習開始前に行うよう指導しているが、先行研究^{26)~28)}では、継続して繰り返し実施する重要性が報告されている。そこで初めての見学実習直前に、学生の手洗い技術が不十分であることを認識させることで、主体的に看護技術を学ぶ姿勢が身に付くのではないかと考えた。

またブルームによる教育目標のうち、情意的領域の興味・関心は、「意識する」ことから始まり、「反応」「価値付け」と段階的に発展する²⁹⁾と言われている。このことから、実習直前に手洗い演習を実施することで、自分の手洗いを「意識化」できるのではないかと考えた。

そこで基礎看護学実習前に手洗い演習を実施することで、学生が実習をどのように意識しているかを明らかにしていくことを目的としている。またその意識づけができることで、学生の学びの主体性につながり、今後の指導に役立てたいと考えた。

II. 目的

見学実習直前の手洗い演習が、学生の主体的学習態度に与える因子を明らかにする。

III. 研究方法

1 研究対象

T短期大学看護学科(3年課程)1年次生94名

2 実施時期

平成17年6月

3 調査方法

1) 基礎看護学実習I(以下見学実習)の前日に「手洗い」演習を実施した。基礎看護学実

習 I とは、「人間の基本的ニーズを充足するために、看護技術の原理・原則を学び、基本的な援助の方法と態度を身につける」ことを目的とし、1年次の前期6月に1日と、後期12月に3日に分けて実施している。1年次の前期に行う実習では、「病院を利用する対象者と、対象者を取り巻く環境について理解を深め、看護をイメージ化する」目的で実施している。

2) 「手洗い」演習では、手洗い訓練キット(グリッターバッグ)を用いて実施し、演習後に「見学実習に活かしたいこと」のレポート記載を求めた。回収は鍵のかかるボックスとし、提出の任意性を高めた。

4 倫理的配慮

研究目的・内容・個人情報の保護について、書面を用いて口頭で十分説明した。

質問紙は個人名が特定できないようデータ処理し、目的以外に使用せず破棄すること、対象が学生なので特に成績や今後の実習に影響がないことを強調した。レポートの回収をもって承諾とした。また高崎健康福祉大学研究倫理委員会の審査を受け研究を実施している。

5 分析方法

「見学実習に活かしたいこと」に自由記載された記述内容を、内容分析の手法で分析した。信頼性・妥当性は、教育経験10年以上の教員3名で検討した。

V. 結果

回収率は100%(94名)、有効回答率は100%であった。対象の属性は、女性78名(83%)、男性16名(17%)で年齢は18歳が90名(96%)、24歳が1名(1%)、30歳以上が3名(3%)、平均18.5歳であった。

意味内容にそってカテゴリー化した結果を表1に示す。全体で8カテゴリーに対し33のサブカテゴリーと154のデータに分類された。8カテゴリーは、【洗い方の修正】【患者に感染させない】【病院で気をつけること】【看護師の手洗いへの興味】【実習に臨む姿勢】【病院の実施方法・設備への関心】【自分の感染予防】【手洗いは大切】であった。以下、本文中カテゴリーを【】、

サブカテゴリーを《》で示す。

カテゴリーの内の【洗い方の修正】39(25.4%)はデータ数の多い順に、《今回残っていた部分をより念入りに洗いたい》17、《手洗いは基本なので念入りに行う》6、《手洗いをまめにすることが大切》4、《すこし時間をかけて洗うことをしようと思う》《爪を短くし、爪の横などもしっかりと洗う》《食事・排泄後など意識して手を洗いたい》3、《1つの行動につき1回の手洗いが必要》《洗う時だけでなく、洗った後も清潔なもので拭く》《手を洗った後、髪の毛に触らないようにする》1、の9サブカテゴリーが抽出された。

カテゴリーの内の【患者に感染させない】37(24%)はデータ数の多い順に、《手洗いをしないと患者さんに感染させてしまう恐れがあると実感したので、実習前は必ず手を洗う》22、《清潔にしなければならない環境なので、自分が感染源にならない(持ち込まない)》10、《食事前後や排泄後の患者に手洗いの大切さを説明できる》3、《患者に接しないが、衛生的によく洗っていこう》2の4サブカテゴリーが抽出された。

カテゴリーの内の【病院で気をつけること】27(17.6%)はデータ数の多い順に、《病院内のいろいろな場所に触ることになると思うので、しっかりこまめに手を洗う》11、《病院は清潔にしないといけないので、爪の間と指間をよく洗おうと思う》9、《むやみに物に触らないよう気をつける》3、《病院には色々な菌や病原体が存在しているので、日頃よりも念入りに意識して手洗いする》《手にこんなに菌がいると知っていれば、作業が終わるごとに手を洗う癖ができそう》《環境についてなので、特にきれいに洗うよう心がける》《病室の前にあるアルコール除菌を付けて病室に入りたい》1、の7サブカテゴリーが抽出された。

カテゴリーの内の【看護師の手洗いへの興味】25(16.2%)はデータ数の多い順に、《看護師がどんな時手を洗っているかよく見ておこう》《看護師はどんな方法で手洗いしているか(自分との違い)》8、《看護師がどれくらい時間

表1 見学実習に活かしたいこと

総件数：154

カテゴリー		サブカテゴリー	データ
洗い方の修正 (39)	25.4%	今回残っていた部分をより念入りに洗いたい	17
		手洗いは基本なので念入りに行う	6
		手洗いをまめにすることが大切	4
		すこし時間をかけて洗うことをしようと思う	3
		爪を短くし、爪の横などもしっかりと洗う	3
		食事・排泄後など意識して手を洗いたい	3
		1つの行動につき1回の手洗いが必要	1
		洗う時だけでなく、洗った後も清潔なもので拭く	1
		手を洗った後、髪の毛に触らないようにする	1
患者に感染させない (37)	24%	手洗いをしないと患者さんに感染させてしまう恐れがあると実感したので、実習前は必ず手を洗う	22
		清潔にしなければならない環境なので、自分が感染源にならない(持ち込まない)	10
		食事前後や排泄後の患者に手洗いの大切さを説明できる	3
		患者に接しないが、衛生的によく洗ってほしい	2
病院で気をつけること (27)	17.6%	病院内のいろいろな場所に触ることになると思うので、しっかりこまめに手を洗う	11
		病院は清潔にしないといけないので、爪の間と指間をよく洗おうと思う	9
		むやみに物に触らないよう気をつける	3
		病院には色々な菌や病原体が存在しているので、日頃よりも念入りに意識して手洗いする	1
		手にこんなに菌がいると知っていれば、作業が終わるごとに手を洗う癖ができそう	1
		環境についてなので、特にきれいに洗うよう心がける	1
		病室の前にあるアルコール除菌を付けて病室に入りたい	1
看護師の手洗いへの興味 (25)	16.2%	看護師がどんな時手を洗っているかよく見ておこう	8
		看護師はどんな方法で手洗いしているか(自分との違い)	8
		看護師がどれくらい時間をかけて洗っているか	6
		看護師は何回洗っているか	3
実習に臨む姿勢 (10)	6.5%	実習の前と後にはきれいに手を洗いたい	5
		実習のときはきれいな手で見学したい	3
		手洗いをして、さっぱりさわやかな気持ちで実習にいきたい	2
病院の実施方法・設備への関心 (6)	3.9%	病院では手洗いを重視していると思うので、どれくらい徹底しているか	3
		1つの階に何個ずつ消毒液があるのか	1
		病院では手洗い液はどれくらいの菌をなくす液を使っているのか	1
		どんなところに手洗い場があるか	1
自分の感染予防 (5)	3.2%	患者から自分に付着した菌を洗い落とし、感染を防ぐ	5
手洗いは大切 (5)	3.2%	見学実習の前に手洗いの大切さに気づいてよかった	5

をかけて洗っているか」6, 「看護師は何回洗っているか」3, の4サブカテゴリーが抽出された。

カテゴリーの内の【実習に臨む姿勢】10(6.5%)はデータ数の多い順に, 「実習の前と後にはきれいに手を洗いたい」5, 「実習のときはきれいな手で見学したい」3, 「手洗いをして, さっぱりさわやかな気持ちで実習にいききたい」2, の3サブカテゴリーが抽出された。

カテゴリーの内の【病院の実施方法・設備への関心】6(3.9%)はデータ数の多い順に, 「病院では手洗いを重視していると思うので, どれくらい徹底しているか」3, 「1つの階に何個ずつ消毒液があるのか」「病院では手洗い液はどれくらいの菌をなくす液を使っているのか」「どんなところに手洗い場があるか」1, の4サブカテゴリーが抽出された。

カテゴリーの内の【自分の感染予防】5(3.2%)は, 「患者から自分に付着した菌を洗い落とし, 感染を防ぐ」5, の1サブカテゴリーが抽出された。

カテゴリーの内の【手洗いは大切】5(3.2%)は, 「見学実習の前に手洗いの大切さに気づいてよかった」5, の1サブカテゴリーが抽出された。

VI. 考察

今回, 「手洗い」の演習を基礎看護学実習Ⅰ(見学実習)の前日に実施し, 実施後の「見学実習に活かしたいこと」のレポートを分析した結果, 8カテゴリーが抽出された。

堤や近藤らは, 2年次講義終了後の分析結果で, 演習後の記述内容を分析した内容^{23) 24)}から, 【洗い方が不十分であった】, 【手洗いの重要性を実感した】, 【洗い残し部位を集中して洗うようになった】, 【食事前に手を洗う】, 【感染予防の方法である】という内容が抽出できたと報告している。森松や前田なども^{21) 26) 27) 30) 31)}同様の報告をしている。今回の調査結果においても, 【洗い方の修正】や【病院で気をつけること】, 「今回残っていた爪周囲部分をより念入りに洗いたい」, 「もっと時間をかけたい」, 「病院

は清潔にしないといけないので, 爪の間と指間をよく洗おうと思う」など, 洗い方の不十分さや洗い残しをしやすい部位を意識して洗おうという因子が抽出され, 先行研究と同様の結果が得られた。これは, 手洗い演習の中で, 日常の手洗いを実施した結果, 洗い残しが多くあったことが視覚的に訴える方法であったことの効果であると考えられた。

衛生学的手洗いに関する学生の意識は, 実習場面によって患者に対して感染の媒体になってはならないという意識が高くなったり, 自分自身にも感染する恐れがあるという意識は低くなる傾向があるとの報告³⁰⁾もある。自分を守る重要性について, 今後も段階的に学習を積み重ね, 卒業時には学生全員が理解し実践できる指導が必要と考えられる。

このように, 今回の演習後の記載内容は, 先行研究と同じような視点での記載があった。今回の結果では, 「今回残っていた部分をより念入りに洗いたい」, 「少し時間をかけて洗うことをしようと思う」のように, 実習の前日ということで, 洗い方が不十分にとどまらずより念入りに, 時間をかけて洗いたいといった今後の目標をも見出していた。これは主体的に看護技術としての手洗いを身につけようと言う学生の姿勢が表現されたものと考えられた。遠藤等²⁸⁾は「日常の手洗いがしっかり出来る学生は, 病院実習時の衛生学的手洗いも出来ると考えられる」と述べているが, 今回学生が気づいた点をそのまま保持し, 講義・実習に生かしていくことが必要であると考えられる。

さらに, 先行研究と比較して, 今回の結果に特徴的な記載は, 【患者に感染させない】では「患者に感染させないように実習前は必ず手を洗おう」「病院は清潔にしなくてはならない所だから, 感染源を持ち込まない」, 【病院で気をつけること】では「病院は色々な菌や病原体が存在しているので, 日頃よりも念入りに意識して手洗いする」などが, あげられる。学習は学習者が「意味の発見」の面白さを学ぶこと¹⁾と言われている。このことは, 学生は単に自分の手の汚れにとどまらず, それが患者に感染させる可

能性など、具体的に患者への影響につなげた、つまり意味することを発見した学習であったことが推測できる。

また【看護師の手洗いへの興味】では「看護師はどんな時にどんな方法でどれくらいの時間で何回手を洗っているか」の記述から、自分の手洗い方法が不十分であると理解した学生は、看護師の手洗いに興味がわき、実習時によく見てこようと考えた結果であると思われる。

波多野³²⁾らは、学習意欲を規定する要因と看護職業意識から検討し、看護職への興味や職業意識が高いほど、学習意欲が高くなると報告している。病院で働く看護師は、看護職を目指す学生の身近なモデルであり、見学実習直前の演習が、看護師の手洗いについて学生の興味・関心を高め、主体的に学ぼう、見ようとしたと考えられる。

更に【病院の実施方法・設備への関心】では「病院では手洗いを重視していると思うので、どれくらい徹底しているか」、「1つの階に何個ずつ消毒液があるのか」などの記述から、学生は手を洗う環境についての興味・関心をもったことが伺われる。見学実習はわずか1日で目的は、対象者を取り巻く環境について理解するものである。貴重な時間であるからこそ、感受性を高め、貪欲に主体的に見学してほしいと教員は期待するのであるが、これらは演習という外部刺激により学生の関心が向き、主体的学習への動機付けといえるのではないか。石田³³⁾は、「分かる」自己学習の過程を観察し、評価を繰り返すことにより自己学習をコントロールする力を育成することができると述べている。このことから受身的な学生も知的好奇心を刺激し、自ら問いを抱くことを支援し、自ら学ぶ楽しさを実感させる過程の援助が必要であると言える。今回は手洗い演習による汚れの視覚化が、看護師の手洗いや病院の設備についての問いにつながり、実習で意識的に見学しようという動機付けになっていると考える。

以上のことから見学実習直前の手洗い演習は、学生の主体的学習態度をもたらすことが示唆さ

れた。今後は更に意識づけできるような教育方法の工夫を検討していく必要がある。

VII. 結論

「見学実習に活かしたいこと」の記載内容からは、【洗い方の修正】【患者に感染させない】【病院で気をつけること】【看護師の手洗いへの興味】【実習に臨む姿勢】【病院の実施方法・設備への関心】【自分の感染予防】【手洗いは大切】8カテゴリーが抽出され、主体的学習態度の動機付けとなる8つの因子が明らかになった。

以上のことから、実習直前の手洗い演習は主体的学習の動機付けとなったことが示唆された。

文献

- 1) 佐伯胖：考えることの教育，国土社，p15-18，1994.
- 2) 徳本弘子，渋谷美香他：テュートリアル教育における学生の学習の意味に関する研究—初年度および3年目の学生の自由記述からみた学生の学習体験とその意味—，埼玉県立大学紀要，Vol.4，p171-179，2002.
- 3) 稲垣佳世子，波多野諠余夫：人はいかに学ぶか—日常的認知の世界，中公新書，p18-63，1992.
- 4) 稲垣佳世子，波多野諠余夫：知的好奇心，中公新書，p133-154，1991.
- 5) 前掲書¹⁾
- 6) パトリシア・クライアント，入江直子他訳：おとなの学びを拓く自己決定と意識変容をめざして，鳳書房，p3-35，1999.
- 7) ジーン・レイブ，エティエンヌ・ウヴェンガー，佐伯胖訳：状況に埋め込まれた学習，正統的周辺参加，産業図書，1994.
- 8) 平原春好，寺崎昌男（編）：新版教育小事典，学陽書房，p164，2006.
- 9) 佐々木秀美：看護基礎教育における技術学に関する若干の考察—学習者参加型学習法を成人看護技術学に取り入れて—，看護学統合研究，5(2)，p54-60，2004.
- 10) 吉岡守正他監修：テュートリアル教育，東京女子医科大学テュートリアル委員会編集，

- 篠原出版, 1996.
- 11) 看護教育における Inquiry Based Learning : Quality Nursing, 文光堂, 1999.
 - 12) ヘレン・パークスト:アメリカの女流教育家. 彼女は自己の教育経験及びモチッソーリ : (イタリアの医師, 教育学者), デューイ:(アメリカの哲学者) の教育思想や学説を考慮に入れた教授法を作成した. この教授法の基本原理は自由と共同である. ドルトンプランと言われたこの学習は学習者の自発性と個性に基づいた学習計画であり, 学習者が自立的に学習を進めていく方式である.
 - 13) 前掲書²⁾
 - 14) 荊山和生:学ばせられ上手な学生と未来の実習者へ, 作業療法, 19(5), p425-427, 2000.
 - 15) 中村和代・竹元仁美:看護技術の教授方法の検討—能動的学習姿勢の育成を目的に学生同士の技術演習指導を試みて—, 日本看護学会論文集, 31, p96-98, 2001.
 - 16) 緒方功, 田中静美他:ジグソー学習法による基礎看護技術「身体の清潔」の教育成果と課題, 藍野学院紀要, 17, p91-98, 2004.
 - 17) Why is hand washing important?, CDC, Division of Media Relations, Monday, March 6, 2000.
 - 18) O. Peter Snyder, Ph. D : A “SAFE HANDS” HAND WASH PROGRAM FOR RETAIL FOOD OPERATIONS, Hospitality Institute of Technology and Management, 2007.
 - 19) EMILY E, SICKBERT—BENNET : Hand washing is simple, effective means of preventing illness, UNC Health Care, 2006.
 - 20) Center for Disease and Prevention (2002) / 満田年宏監訳 (2003) Guideline for handhygiene in Healthcaresetting, <http://www.cdc.gov/mmwt/PDF/rr/rr5116.pdf>.
 - 21) 近藤良子, 鈴木裕子他:母性看護学実習における衛生的手洗いの実態調査, グリッターバッグを用いた評価, 日本赤十字武蔵野短期大学紀要, 17号, p39-45, 2004.
 - 22) 杉田久美子, 吉田芳子他北摂総合病院院内感染対策委員会:学生に対する手洗いの教育と実習の効果, 環境感染, 20巻2号, p129-132, 2005
 - 23) 堤かおり:身体に積極的関心を注ぐ演習方法の検討—学生自身の体に関する情報の示を通して, 日本看護学会論文集(看護教育), 34号, p56-58, 2003
 - 24) 近藤美月, 岩本真紀他:看護学生の日常的手洗いの実験演習における学び—洗い残し部分のスケッチレポートの分析から, 香川医科大学看護学雑誌, 7巻1号, p1-13, 2003.
 - 25) 小林美香子, 松井和世:グリッターバッグを使用した看護学生の手洗いに関する実態調査—学年別比較—, 日本看護学会第33回看護教育, p174-176, 2002.
 - 26) 森松伸一, 柳田潤一郎他:手洗いトレーニングボックスを用いた学生の衛生的手洗いの評価—微生物学教育の効果を高め, 基礎看護技術習得への動機付けとして, 神戸常盤短期大学紀要, 25巻, p51-55, 2004.
 - 27) 前田ひとみ:基礎教育でEBNをどう教えるか—基礎教育におけるEBNの考え方と教授方法—実験実習から学ぶ手洗いの意義と根拠, 看護展望, 29巻6号, p700-705, 2004.
 - 28) 遠藤英子, 西恵実他:看護学生の手指の清潔に対する認識の変化と手洗い行動に関する一考察, 東邦大学医療短期大学紀要, 第14号, 2000.
 - 29) 肥田野直:教育評価, 放送大学教材, p54, 1993.
 - 30) 近藤美月, 岩本真紀他:衛生的手洗いの単元終了1年後の定着に関する実態調査, 香川医科大学看護学雑誌, 6巻1号, P37-45, 2002.
 - 31) 浅原益子, 千田好子他:看護基礎教育における手洗い教育のあり方, 看護教育44巻3号, p245-247, 2003.
 - 32) 波多野梗子:看護学生の学習および看護職

基礎看護学実習(見学)直前の手洗い演習が主体的学習態度に与える因子

に対する態度の発達的变化, 看護教育, 23
(8), p 513-519, 1982.

- 33) 石田勢津子: 自己学習システムの機能と役割, 風間書房, p 4-13, 1995.